

第53期

# 定時株主総会 招集ご通知

開催  
日時

2026年6月26日（金曜日）  
午前10時（受付開始 午前9時30分）

開催  
場所

東京都港区港南一丁目2番70号  
品川シーズンテラス  
3階カンファレンス

決議  
事項

議案 取締役（監査等委員である取  
締役を除く。）5名選任の件

## 議決権行使について

インターネット又は郵送により議決権を行使ください  
ますようお願い申し上げます。

行使期限

2026年6月25日（木曜日）  
午後5時30分

## 【お土産廃止のお知らせ】

本総会にご出席の株主の皆さまへのお土産は廃止させていた  
だいております。何卒ご理解くださいますようお願い申し  
上げます。

企業理念

## 心技の融和

クロスキャストは、知識・技術・創意という知的要素である『技』を高め、  
お客様には『心』で対応する。  
つまり『心技の融和』をモットーとして社会に貢献します。

経営理念

## 技術と感性

私たちは、企業理念にある『心』の本意は誠意であり、  
時には意欲・忍耐・信念をも包含すると考えます。  
従って、どんな困難な局面においても『ハート』を失わないよう努めます。  
私たちは、先進的なアプリケーション開発技術と、多様な運用のノウハウを駆使し、  
ユーザーへの総合的かつプロフェッショナルなサービスの提供に努めます。  
私たちは、常に時代を見る眼と、みずみずしい感性を持ち、  
世のトレンド、環境にフレキシブルな対応ができるよう努めます。

法令及び当社定款に基づき電子提供措置事項から一部を除いた書面をご送付しております。  
したがって、ご送付している書面の頁番号、項番、参照頁は電子提供措置事項と同一となっておりますのでご了承ください。

## 経営ビジョン

# 独立系情報サービス企業として、 持続的な企業価値向上と社会への貢献

独立系情報サービス企業として株式上場を維持し、  
お客様、株主、従業員など全てのステークホルダーの期待に応え、社会への貢献を果たします。  
そして、創業50年を経て、次の100年を目指す企業として持続的な成長を実現します。

## 中期経営計画

# 「Growing Value 2026」 提供価値を高め、お客様に必要とされる企業へ

当社の提供価値である品質・効率性・専門性・ノウハウを組み合わせたサービスの質を高め、  
カスタマーサクセスへの貢献を目指します。

## ごあいさつ



株主の皆様には、平素よりご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

クロスキャットグループは、“心技の融和”を企業理念に、社会に貢献する情報サービス企業として事業活動を推進しております。わが国経済は、緩やかな回復基調が続いている一方、米国の通商政策の懸念や中東情勢をはじめとする地政学リスクによる景気下振れへの懸念や物価上昇の継続などにより、景気の先行きは依然として不透明な状況にあります。当社グループが属する情報サービス産業を取り巻く環境は、クラウド、生成AIなどをはじめとする先端IT技術を活用したDXの推進など、社会課題解決に向けたIT投資が引き続き堅調に推移していくと考えております。このような状況下におきまして、当社グループは、中期経営計画「Growing Value 2026」（2024年度～2026年度）で掲げた目標達成に向けて、事業を推進しております。当社の提供価値を高めることでカスタマーサクセスに貢献し、お客様に必要とされる企業を目指して、関係会社であるクロスユーアイエス、クロスアクティブ、クロスリードとともに、グループ一丸となって取り組んでまいります。今後とも、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

証券コード2307  
2026年6月8日  
(電子提供措置の開始日 2026年6月1日)

株 主 各 位

東京都港区港南一丁目2番70号  
株式会社 **クロスキャット**  
代表取締役社長 山根 光 則

## 第53期定時株主総会招集ご通知

拝啓 日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社第53期定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご通知申し上げます。

本株主総会の招集に際しては電子提供措置をとっており、インターネット上の下記ウェブサイト  
に電子提供措置事項を掲載しております。

当社ウェブサイト

<https://www.xcat.co.jp>



上記ウェブサイトアクセスいただき、「IR情報」「株式情報」「株主総会資料」を順に選択いただき、ご確認ください。

また、上記のほか、インターネット上の下記ウェブサイトにも掲載しております。

東京証券取引所ウェブサイト  
(東証上場会社情報サービス)

<https://www2.jpx.co.jp/tseHpFront/JJK010010Action.do?Show=Show>



上記ウェブサイトアクセスいただき、銘柄名(クロスキャット)又は証券コード(2307)を入力・検索し、「基本情報」「縦覧書類 / PR情報」を順に選択いただき、ご確認ください。

なお、当日ご出席されない場合は、インターネット又は書面により議決権を行使することができますので、お手数ながら株主総会参考書類をご検討の上、2026年6月25日(木曜日)午後5時30分までに議決権を行使していただきますようお願い申し上げます。

敬 具

記

- |      |   |                                                                       |
|------|---|-----------------------------------------------------------------------|
| 1. 日 | 時 | 2026年6月26日(金曜日) 午前10時                                                 |
| 2. 場 | 所 | 東京都港区港南一丁目2番70号<br>品川シーズンテラス 3階 カンファレンス<br>(末尾の「株主総会会場ご案内図」をご参照ください。) |

3. 会議の目的事項  
報告事項

1. 第53期（2025年4月1日から2026年3月31日まで）事業報告及び連結計算書類並びに会計監査人及び監査等委員会の連結計算書類監査結果報告の件
2. 第53期（2025年4月1日から2026年3月31日まで）計算書類報告の件

決議事項  
議案

取締役（監査等委員である取締役を除く。）5名選任の件

以上

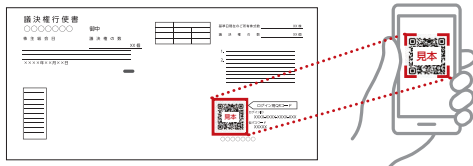
- ~~~~~
- 当日ご出席の際には、お手数ながら議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。
  - 会社法改正により、電子提供措置事項について上記の各ウェブサイトアクセスの上ご確認いただくことを原則とし、基準日までに書面交付請求をいただいた株主様に限り書面でお送りすることとなりましたが、本株主総会においては、書面交付請求の有無にかかわらず、一律に電子提供措置事項を記載した書面をお送りいたします。  
電子提供措置事項のうち、次の事項につきましては、法令及び当社定款の規定に基づき、株主様に対して交付する書面には記載しておりません。
    - ①事業報告のうち「新株予約権等の状況」、「会計監査人の状況」及び「業務の適正を確保するための体制及び当該体制の運用状況の概要」
    - ②連結計算書類のうち「連結株主資本等変動計算書」及び「連結注記表」
    - ③計算書類のうち「株主資本等変動計算書」及び「個別注記表」
    - ④監査報告「連結計算書類に係る会計監査報告」、「計算書類に係る会計監査報告」及び「監査等委員会の監査報告」なお、会計監査人及び監査等委員会は上記の事項を含む監査対象書類を監査しております。
  - 電子提供措置事項に修正が生じた場合は、掲載している各ウェブサイトに掲載させていただきます。
  - 決議結果につきましては、上記の当社ウェブサイトに掲載させていただきます。
- ~~~~~



## QRコードを読み取る方法

ログインID、パスワードを入力することなく、議決権行使サイトにログインすることができます。

- 1 スマートフォンで議決権行使書紙の右下に記載のQRコードを読み取ってください。



- 2 以降は、画面の案内に従って賛否をご入力ください。



※「QRコード」は株式会社デンソーウェブの登録商標です。

## ログインID・パスワードを入力する方法

議決権行使サイト <https://evote.tr.mufg.jp/>

- 1 パソコン、スマートフォンから、上記の議決権行使サイトにアクセスしてください。
- 2 議決権行使書紙に記載された「ログインID・仮パスワード」を入力クリックしてください。



「ログインID・仮パスワード」を入力

「ログイン」をクリック

- 3 以降は、画面の案内に従って賛否をご入力ください。

議決権の行使システム等に関するお問い合わせ

三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部(ヘルプデスク)

 **0120-173-027** (受付時間 午前9時～午後9時、通話料無料)

## 株主総会参考書類

## 議案 取締役（監査等委員である取締役を除く。）5名選任の件

2025年6月26日開催の第52期定時株主総会において選任いただいた取締役（監査等委員である取締役を除く。）全員（5名）は、本総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては、取締役（監査等委員である取締役を除く。）5名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案について監査等委員会において検討がなされましたが、特段指摘すべき事項はない旨の意見表明を受けております。

取締役（監査等委員である取締役を除く。）の候補者は次のとおりであります。

各候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。

候補者 番号	氏名		性別	満年齢	現在の当社における 地位・担当	取締役 在任期間	取締役会 出席状況
1	 いのうえ たかのり <b>井上 貴功</b>	再任	男性	67歳	代表取締役会長	17年	100% (18回/18回)
2	 やまね みつのり <b>山根 光則</b>	再任	男性	57歳	代表取締役社長	6年	100% (18回/18回)
3	 やました ともき <b>山下 智己</b>	再任	男性	61歳	取締役常務執行役員 コーポレート統括部担当	8年	100% (18回/18回)
4	 みちがみ まさと <b>道上 正人</b>	再任	男性	50歳	取締役常務執行役員 金融ビジネス事業部担当 兼公共ビジネス事業部担当 兼DXインテグレーション事業部担 当 兼DXソリューション事業部担当	4年	100% (18回/18回)
5	 おぐら いさお <b>小倉 功</b>	再任	男性	64歳	取締役執行役員 管理統括部担当	5年	100% (18回/18回)

候補者  
番号

1

いのうえ たかのり  
**井上 貴功**

再任



生年月日	1958年12月21日生（満67歳）
取締役在任期間	17年
取締役会への出席状況	100%（18回／18回）
所有する当社の株式数	158,015株

## 略歴、当社における地位及び担当

1981年 4月	小杉産業株式会社入社	2012年 4月	当社代表取締役副社長執行役員営業統括部担当
1983年 4月	当社入社	2013年 4月	当社代表取締役社長
2003年 4月	当社執行役員コンサルティング事業部長	2023年 6月	当社代表取締役会長（現任）
2009年 6月	当社取締役執行役員営業統括部長		
2011年 4月	当社常務取締役執行役員営業統括部担当		

## 重要な兼職の状況

該当事項はありません。

## 取締役候補者とした理由

当社の主力業務を育てた強いリーダーシップを活かし、代表取締役会長として当社を牽引しております。引き続き、リーダーとして当社の経営や取締役会の意思決定等を牽引していただくことを期待し、取締役候補者としました。

候補者  
番号

2

やまね みつのり  
山根 光則

再任



生年月日	1969年2月23日生（満57歳）
取締役在任期間	6年
取締役会への出席状況	100%（18回／18回）
所有する当社の株式数	25,615株

## 略歴、当社における地位及び担当

1989年4月	当社入社	事業部担当兼法人ビジネス事業部担当
2020年6月	当社取締役執行役員保険ビジネス事業部長兼金融ビジネス事業部担当兼公共ビジネス事業部担当兼法人ビジネス事業部担当兼DX事業部担当	2022年4月 当社取締役副社長執行役員金融第1ビジネス事業部担当兼金融第2ビジネス事業部担当兼公共第1ビジネス事業部担当兼公共第2ビジネス事業部担当兼DX事業部担当
2021年10月	当社取締役常務執行役員金融ビジネス事業部担当兼保険ビジネス事業部担当兼公共第1ビジネス事業部担当兼公共第2ビジネス事業部担当兼DX	2023年6月 当社代表取締役社長（現任）

## 重要な兼職の状況

該当事項はありません。

## 取締役候補者とした理由

入社以来開発部門に所属しており、その豊富な知識、経験、実績を活かし、代表取締役社長として当社を牽引しております。引き続き、リーダーとして当社の経営や取締役会の意思決定等を牽引していただくことを期待し、取締役候補者となりました。

候補者  
番号

3

やました とも き  
山下 智己

再任

生年月日	1965年4月9日生（満61歳）
取締役在任期間	8年
取締役会への出席状況	100%（18回／18回）
所有する当社の株式数	16,320株



## 略歴、当社における地位及び担当

1988年4月	株式会社三菱銀行（現 株式会社三菱UFJ銀行）入行	担当兼管理統括部担当兼仙台支店担当
2018年4月	当社入社	2022年4月 当社取締役常務執行役員経営財務統括部長兼CX統括部担当
2018年6月	当社取締役執行役員経営財務統括部担当兼管理統括部担当	2024年4月 当社取締役常務執行役員コーポレート統括部担当（現任）
2020年4月	当社取締役執行役員経営財務統括部	

## 重要な兼職の状況

該当事項はありません。

## 取締役候補者とした理由

金融業界における幅広い経験と財務及び経営管理における豊富な知識と経験を有しており、当社の管理部門を率いております。引き続き、培ってきた知識、経験を当社の経営や取締役会の意思決定に反映していただくことを期待し、取締役候補者としてしました。

候補者  
番号

4

みちがみ まさと  
道上 正人

再任



生年月日	1976年2月27日生（満50歳）
取締役在任期間	4年
取締役会への出席状況	100%（18回／18回）
所有する当社の株式数	14,093株

#### 略歴、当社における地位及び担当

1998年4月	当社入社	ス事業部担当兼公共ビジネス事業部担当兼DX事業部担当	
2020年4月	当社執行役員法人ビジネス事業部長兼DX事業部長		
2022年6月	当社取締役執行役員DX事業部長兼公共第1ビジネス事業部担当兼公共第2ビジネス事業部担当	2026年4月	当社取締役常務執行役員金融ビジネス事業部担当兼公共ビジネス事業部担当兼DXインテグレーション事業部担当兼DXソリューション事業部担当（現任）
2025年4月	当社取締役常務執行役員金融ビジネス		

#### 重要な兼職の状況

該当事項はありません。

#### 取締役候補者とした理由

入社以来、開発部門から管理部門、関係会社社外取締役まで幅広い分野に従事しており、引き続き、その豊富な経験を当社の経営や取締役会の意思決定に反映していただくことを期待し、取締役候補者としました。

候補者  
番号

5

おぐら いさお  
小倉 功

再任



生年月日	1961年7月30日生（満64歳）
取締役在任期間	5年
取締役会への出席状況	100%（18回／18回）
所有する当社の株式数	10,962株

## 略歴、当社における地位及び担当

1987年4月	日本IBM入社	2018年4月	当社管理統括部統括部長代理
2004年10月	同社グローバル・ISV・ソリューションズ第三所属アライアンス担当部長	2019年4月	当社執行役員管理統括部長
2012年11月	当社入社	2021年6月	当社取締役執行役員営業統括部担当
2014年4月	当社法人ビジネス事業部事業部長代理	2022年4月	当社取締役執行役員SI営業統括部担当兼DX営業統括部担当
2016年4月	当社営業統括部統括部長代理	2024年4月	当社取締役執行役員管理統括部担当（現任）

## 重要な兼職の状況

該当事項はありません。

## 取締役候補者とした理由

長年の営業経験ののち、開発、管理部門に従事し、幅広い分野での豊富な知識と経験を有しており、引き続き、培ってきた知識、経験を当社の経営や取締役会の意思決定に反映していただくことを期待し、取締役候補者となりました。

- (注) 1. 当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、保険料は特約部分も含め全額会社が負担しております。当該保険契約では、被保険者がその職務の執行に関し責任を負うこと又は当該責任の追及に係る請求を受けることによって生ずることのある損害について填補することとされています。各候補者は、当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。なお、当社は、当該保険契約を任期途中に同様の内容で更新する予定であります。
2. 各候補者の所有する当社の株式数には、当社役員持株会における本人の持分を含めております。

以上

## 〈ご参考〉



## 取締役のスキルマトリックス

本招集ご通知記載の候補者を原案どおりご選任いただいた場合の当社取締役が有している専門知識や経験は以下のとおりです。

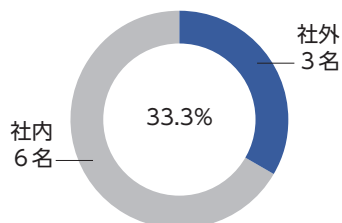
	氏名	属性	専門性及び経験					
			企業 経営	財務/ 会計	人材/ 人事	IT/テクノ ロジー	営業/マー ケティング	法務/ リスク
取締役	井上 貴功	男性	●	●		●	●	
	山根 光則	男性	●			●	●	
	山下 智己	男性		●	●			●
	道上 正人	男性			●	●		
	小倉 功	男性			●	●	●	
で監 査 等 取 締 員 役	小野田友彦	男性		●		●		●
	瀬戸川礼子	女性 社外 独立		●	●			
	鈴木 実	男性 社外 独立	●			●	●	
	幸重 孝典	男性 社外 独立	●			●	●	

## 当社グループのスキル項目及び定義

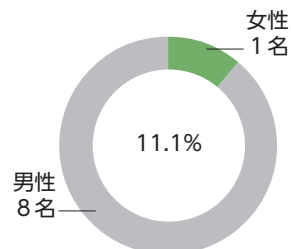
スキル項目	定義
企業経営	企業経営に関する経営トップ（代表取締役、あるいはそれに準ずる役割）としての経験・知見
財務／会計	経理・財務部門、あるいは金融機関での業務経験 財務及び会計に関する知見
人材／人事	人材戦略等、人事労務業務に関する経験・知見
IT／テクノロジー	IT業界やDXに関する技術研究・開発部門での責任者としての経験 IT業界やDXに関する相当程度の知見
営業／マーケティング	営業の経験・知見 マーケティング戦略の企画に携わった経験・知見
法務／リスク	法務、コンプライアンス、リスクマネジメント、内部統制関連の経験・知見

## 取締役会の構成

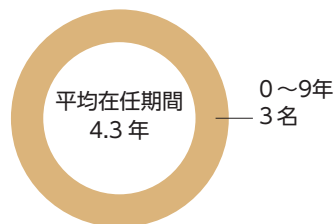
社外取締役（独立役員）の比率



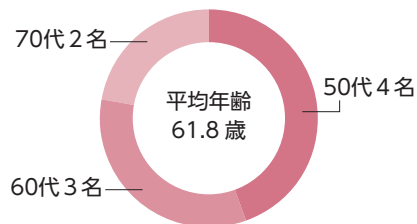
女性取締役の比率



社外取締役の在任期間



年齢



## 政策保有株式について

## (1) 政策保有株式に関する方針

当社は、純投資以外の目的で上場株式を保有するに際しては、投資先との関係維持又は強化等の必要性、中長期的な経済合理性、将来の見通し等を併せて厳正に審査し、合理性が認められた場合のみ保有します。上場株式を含めた当社の資産ポートフォリオについては、取締役会にて、個別銘柄毎に、中長期的な経済合理性や将来の見通しを踏まえ、毎年その保有意義を見直しております。保有意義が薄れたと考えられる投資株式については、株主として相手先企業と必要十分な対話を行います。その結果、改善が認められない株式については、適時・適切に売却します。

## (2) 政策保有株式の保有状況

区分	2025年3月末		2026年3月末	
	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の合計額 (百万円)	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の合計額 (百万円)
上場株式	5	225	4	182
上場株式以外	—	—	—	—
合計	5	225	4	182
連結純資産合計		5,853		6,656
連結純資産合計 に対する割合		3.9%		2.7%

# 事業報告 (2025年4月1日から2026年3月31日まで)

## 1 当社グループの現況

### (1) 当連結会計年度の事業の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調が続いた一方、米国の通商政策や中東情勢をはじめとする地政学リスクによる景気下振れへの懸念や物価上昇の継続など、景気の先行きは引き続き不透明な状況にあります。

当社グループが属する情報サービス産業を取り巻く環境は、IT人材の不足等の供給面に課題を残しつつも、クラウド、生成AIなどをはじめとする先端IT技術を活用したDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進など、社会課題解決に向けたIT投資が引き続き堅調に推移していくと考えております。

このような事業環境下、当社グループは、中長期的な経営方針である経営ビジョンを「独立系情報サービス企業として、持続的な企業価値向上と社会への貢献」と定め、この経営ビジョンのもと2024年4月よりスタートした中期経営計画「Growing Value 2026」が2年目となりました。中期経営計画では、当社の強みを明確化し、提供価値である品質・効率性・専門性・ノウハウを組み合わせたサービスの質を高め、カスタマーサクセスへの貢献を目指すことを基本方針としております。この基本方針に基づいた「価値提供モデルへの転換」、「アセットベースビジネスの拡大」、「顧客基盤の強化」、「人材・組織力の強化」、「各社の強みや特徴を活かしたグループ経営の展開」を5つの基本戦略として掲げ、中期経営計画の目標達成に向け、基本戦略ごとの取り組みを推進しております。

当連結会計年度の主な取り組みとしては、多様化するエンドユーザーのAI・DXニーズに対応するため、国内最大級のベンチャーキャピタルファンド「SBIデジタルスペースファンド」（正式名称：SBI Venture Fund 2023 投資事業有限責任組合）へ500百万円を出資しました。今後は、SBIインベストメントが有する豊富な情報・ノウハウ・ネットワークを活用し、AI・ビッグデータ・DXなどを強みとするスタートアップ企業との協業によるオープンイノベーションを推進してまいります。これにより、社会インフラや企業のDX化を一層加速させるとともに、新たな収益基盤の構築と持続的な企業成長を目指します。

また、「人材・組織力の強化」の一環として、社員エンゲージメント向上を目指し、本社オフィスの一部リニューアルを実施しました。今回は、「社員が集い、つながり、広がる場」をコンセプトに、大会議室及びリフレッシュスペースをリニューアルし、働きやすさと創造性を両立する空間を整備しました。今後も社員一人ひとりが最大限の力を発揮できる環境整備を進め、部署の垣根を越えた交流の活性化や、知識・アイデアの共有によるイノベーションを推進してまいります。

これらの結果、当連結会計年度の売上高は17,314百万円（前期比6.9%増）と前期を上回りました。また、主要事業の受注高増加により引き続き高い稼働率を維持できたことで、原価率が前期並みに推移し、売上総利益は4,077百万円（前期比6.0%増）となりました。

分野別の業績は次のとおりです。

(SI分野)

SI（システムインテグレーション）分野は、クレジットや金融、公共、製造、通信、流通など幅広い業種を対象に、システムの設計、開発、運用・保守などにおいて、長年にわたり培ってきた技術やノウハウを活かした高品質なSIサービスを提供しております。当連結会計年度においては、クレジット向けは前期に大型案件の引渡があった反動減で前期比24.4%減となった一方、金融向けは銀行業務システムの保守サービス等が好調に推移し、前期比24.6%増となりました。また、公営競技・スポーツ振興くじ向けは受注が拡大し、前期比82.4%増、官公庁・自治体・公共企業向けも受注が堅調に推移しました。その結果、SI分野の売上高は14,852百万円（前期比6.2%増）、売上総利益は3,535百万円（前期比6.7%増）となりました。

(DX分野)

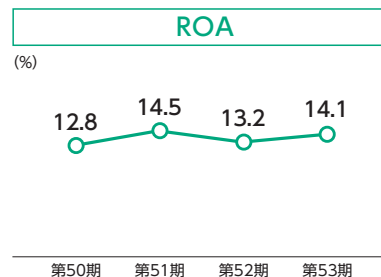
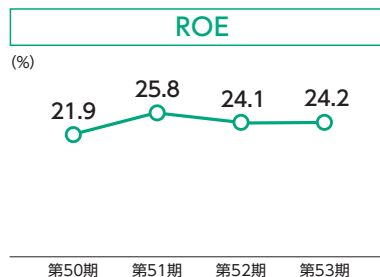
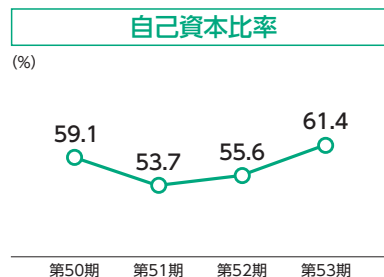
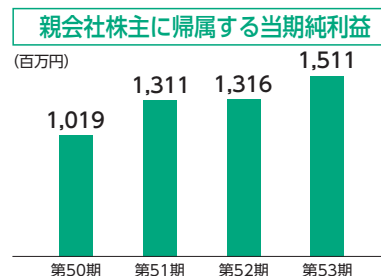
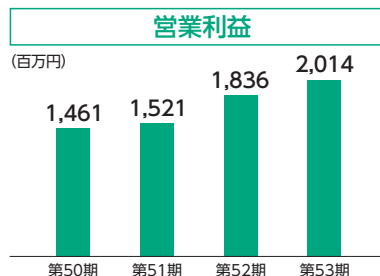
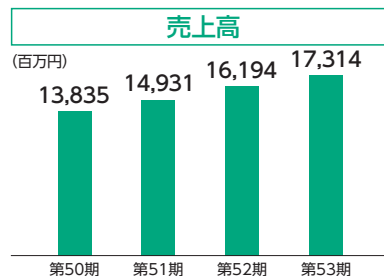
DX分野は、クラウド・生成AIなどの先端技術を利用したサービスの提供をはじめ、長年にわたり当社が強みとするデータ利活用のための支援サービスや基盤構築、独自開発システムなどの提供により、業務効率化や生産性向上など様々なお客様のDX化に貢献しております。当連結会計年度においては、勤怠管理クラウドサービスなどの自社開発システム関連の販売が堅調に推移しました。また、データ利活用の需要拡大を背景としたデータ活用基盤構築等の受注が好調に推移しました。その結果、DX分野の売上高は2,461百万円（前期比11.6%増）となりました。売上総利益は、クラウド関連サービスの事業拡大に向けた先行投資を行ったことで原価率が上昇し、542百万円（前期比1.7%増）となりました。

その他の利益面では、人材の育成と確保に向けた取り組みの一環として、積極的な賃上げや新卒・中途社員の採用費、教育施策の拡充及びオフィス環境整備等の人的資本への投資が前期比で増加しましたが、増収に伴う増益が上回り、営業利益は2,014百万円（前期比9.7%増）、経常利益は2,043百万円（前期比7.6%増）となりました。また、保有資産の効率化及び財務体質の強化の一環として投資有価証券の一部を売却し、投資有価証券売却益を計上したことで、親会社株主に帰属する当期純利益は、1,511百万円（前期比14.8%増）となりました。

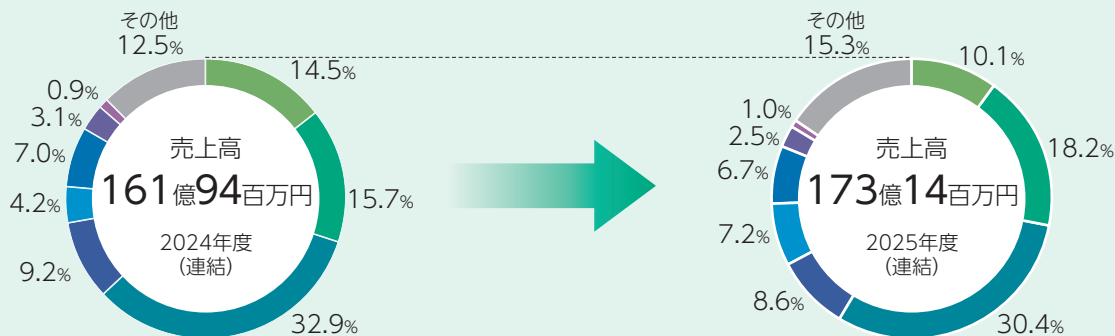
以上により、売上高及び各利益は5期連続して過去最高を更新しました。また、中期経営計画で目標に掲げた収益性に係る財務目標（売上高、営業利益、営業利益率、ROE）及びKPI（一人当たり売上高、一人当たり営業利益）を1年前倒しで達成しております。

## (2) 財産及び損益の状況

項目	第50期 2023年3月期	第51期 2024年3月期	第52期 2025年3月期	第53期 2026年3月期
売上高 (百万円)	13,835	14,931	16,194	17,314
営業利益 (百万円)	1,461	1,521	1,836	2,014
経常利益 (百万円)	1,510	1,570	1,898	2,043
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	1,019	1,311	1,316	1,511
1株当たり当期純利益 (円)	67.91	90.28	93.17	107.90
総資産 (百万円)	8,593	9,466	10,526	10,846
純資産 (百万円)	5,076	5,083	5,853	6,656
自己資本比率 (%)	59.1	53.7	55.6	61.4
ROE (%)	21.9	25.8	24.1	24.2
ROA (%)	12.8	14.5	13.2	14.1



## 2025年度クロスキャストの業種別売上構成



クロスキャストは、クレジット、金融及び官公庁・自治体・公共企業を中心に、様々な分野へ事業を展開。

“独立系の情報サービス企業”の強みを活かし、幅広い視点と柔軟な発想で、顧客のニーズに応じています。

### クレジット 17億55百万円

当社はクレジットの進化とともに、30年以上にわたり数多くのシステム構築（会員の与信管理や各種提携カード、CD/ATM業務、加盟店管理・精算業務など）を積み重ねてきました。その中でもVISAやMastercardなどに代表される“国際ブランド”領域では優位な技術を保有しています。私たちの暮らしに深く浸透しているクレジットカードの市場は、キャッシュレス化と決済チャネルの拡大により、さらに成長が見込まれます。

### 金融 31億49百万円

「銀行」「保険」向けのシステムを構築しています。銀行システムではメガバンクのシステム保守までを手掛け、保険領域においては大手保険会社のオンライン業務システム開発、大規模インフラ構築を得意分野としております。また保険代理店向けのシステムにも携わっており、大手ベンダーの提供するシステムの開発から運用・事務・ヘルプデスクに至るまで、独占して一気通貫で対応していることに加え、AIを活用したDX推進支援も手掛ける等、事務効率化のソリューション提供支援も行っています。

### 官公庁・自治体・公共企業 52億64百万円

当社は、行政サービスの向上・効率化を目指した、全国規模のシステム開発・インフラ整備を幅広く手掛けています。当社独自の入札・落札も行い、国税庁の確定申告書等作成コーナーなどの高品質・安全性及び信頼性の高いシステムを提供し続けています。このように日本が目指す社会未来像である“デジタルガバメント”の実現の一翼を担い、国民生活をより便利で豊かにすることへ貢献しています。

### 製造 15億00百万円

生産・販売・マーケティング・経営管理等の“戦略データ”を整理し、企業活動を支えるデータ分析基盤を構築しています。

### 公営競技・スポーツ振興くじ 12億40百万円

競馬、競輪、競艇、オートレースなどの「公営競技システム」の開発に40年以上携わり、多岐にわたるノウハウを蓄積。また、スポーツ振興くじの発券から払い戻しまで一連のシステムの開発を手掛けています。基幹システムから民間投票サイトまで、公営競技・スポーツ振興くじに関わるシステムを幅広く提供しています。

### 通信 11億54百万円

通信会社が提供するネットワークが正常に動作するように24時間・365日の監視をし、故障時の即時対応などで通信会社からの信頼を得ています。また、携帯電話会社の顧客管理システムの開発、携帯電話で使用するネットワークシステムのインフラを構築しています。

### 流通 4億33百万円

輸送、保管、荷さばき、流通加工その他の物資の流通に係る業務管理システム等を開発・保守をしています。

### 報道出版 1億67百万円

TV対応システムを主とし、さらに営業を支援するシステムを開発しています。

**(3) 設備投資の状況**

当連結会計年度において実施した設備投資の総額は、80百万円となりました。その主なものは、オフィス環境整備に伴う設備等に60百万円、社内利用ソフトウェアに20百万円となっております。

**(4) 資金調達の状況**

運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行6行と当座貸越契約を締結しております。当連結会計年度末における当座貸越契約に係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。

	当連結会計年度 (2026年3月31日)
当座貸越極度額	3,300百万円
借入実行残高	700百万円
差引額	2,600百万円

**(5) 事業の譲渡、吸収分割又は新設分割の状況**

該当事項はありません。

**(6) 他の会社の事業の譲受けの状況**

該当事項はありません。

**(7) 吸収合併又は吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況**

該当事項はありません。

**(8) 他の会社の株式その他の持分又は新株予約権等の取得又は処分の状況**

該当事項はありません。

## (9) 対処すべき課題

わが国経済は、米国の通商政策の懸念や不安定な国際情勢に伴う原材料や燃料価格の高騰、円安による物価の上昇等、不確実な状況が続きましたが、国内では雇用や所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調が持続しました。一方、期末にかけて中東情勢の緊迫化もあり、景気の先行きは急速に不透明の度合いが高まっております。

当社が属する情報サービス産業を取り巻く環境は、IT人材の不足等の供給面に課題を残しつつも、クラウド、生成AIなどをはじめとする先端IT技術を活用したDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進など、社会課題解決に向けたIT投資が引き続き堅調に推移していくと考えております。

このような経営環境下、当社グループは、長期的な経営方針である経営ビジョンの下、中期経営計画の達成に向け、以下の対処すべき課題に取り組んでまいります。

### ① 業容の拡大

IoT（Internet of Things）の発展で世の中のあらゆる事象のデータを取得し、取得したデータから新たな価値を創造できるビッグデータやAIは、社会に欠かせない技術となっており、経営やビジネスの競争優位の獲得に向けたIT投資の戦略性が高まっております。情報サービス業界では、企業のIT投資意欲は高いものの、当社グループが業容を拡大していくには、他社との競争において優位に立つ必要があります。当社は、多様なDXニーズに対応する専門部署を社長直轄の組織とし、先端技術を活かしたDXへの取り組みを一層推進しております。

また、当社は、長年にわたり金融・保険・公共など、非常に公益性の高い分野にシステム開発を提供しており、お客様と信頼関係を構築しております。お客様の課題を先取りし、当社の提供価値である品質・効率性・専門性・ノウハウを活かした積極的な提案活動を行い、柔軟な資源配分を行うことで顧客内シェアの拡大を図ってまいります。

グループとして、子会社であるクロスユーアイエス・クロスアクティブ・クロスリード各社の得意領域と特徴を活かし、グループ経営のシナジー創出はもとより、事業提携やM&Aについても戦略的検討を継続してまいります。

### ② 収益力の向上

収益力を向上させるためには、提供サービスの付加価値を高め、一人当たり売上高及び利益を高めていくことが重要となります。

当社は長年、社会のインフラでもある金融・官公庁・製造など様々な組織のシステム開発や保守を担当してきました。社内には多くのナレッジ・ノウハウなどが蓄積されてお

り、これは当社の強みとなる知的財産であると考えております。この知的財産をベースにサービスモデルを変革するとともに、ブランディングの強化により従業員・社会の認知を高め、新規の事業領域の拡大を図ってまいります。

合わせて不採算プロジェクトの未然防止と作業品質の確保のため、長年運用実績のあるISO9001を基にした品質マネジメントを実施し、PMO（Project Management Office）による監視強化と併せて高いレベルでの品質管理活動を実践してまいります。

### ③ 人材の育成と確保

情報技術の進化は目覚ましく、当社に求められる技術水準も高く、新たな技術習得も企業成長のために必要です。また当社が属する情報サービス業界ではIT人材が不足しており、最も重要な経営資源である技術者の安定的確保とスキルの向上は、継続的な経営課題といえます。そのため、スペシャリスト採用やリファラル採用などの様々な手法を通じて、新卒採用、キャリア採用ともに力を入れる一方で、M&Aも選択肢とし、人材の確保に努めます。迎え入れた人材が戦力として活躍できるよう、最新技術習得とプロジェクトマネジメントスキルの習得を中心とした社内・外部研修による人材育成に努めております。

当期においては、中核人材が力を存分に発揮し、より活躍の度合いに応じた処遇を受けられるように、評価項目を再編し、管理職向け評価研修等を実施しました。

### ④ サステナビリティへの取り組み

国連が提唱する「持続可能な2030年までの開発目標（SDGs）」の達成を社会的責務と捉えており、当社においてもサステナビリティへの取り組みは重要な課題であります。

クロスキャストグループは、サステナビリティ基本方針として「ITソリューションサービスの提供を通じて、お取引先の環境課題をお取引先と一緒に解決する」社会課題解決型ビジネスに取り組むIT企業グループを目指しております。当基本方針に従い、マテリアリティを特定し、年度ごとにKPIの達成を目指すことで、本業を通して社会課題の解決に貢献し、一層のサステナビリティへの取り組みを推進してまいります。

**(10) 重要な親会社及び子会社の状況**

① 親会社との関係  
該当事項はありません。

② 重要な子会社の状況

会社名	資本金	議決権の比率	主要な事業内容
株式会社クロスユーアイエス	100,000千円	100%	情報処理サービス、システム開発及び販売
株式会社クロスアクティブ	36,400千円	100%	情報処理サービス、システム開発及び販売
株式会社クロスリード	100,000千円	100%	情報処理サービス、システム開発及び販売

③ 当連結会計年度末日における特定完全子会社の状況  
該当事項はありません。

**(11) 主要な事業内容 (2026年3月31日現在)**

当社グループは、情報システムの企画提案から設計、開発、運用、保守に至るまでの総合的なサービスを提供するシステム開発を主業務に、B Iビジネス、オリジナルソリューション販売、オリジナルパッケージ販売によるソリューション提供を行っております。

**(12) 主要な営業所及び工場 (2026年3月31日現在)**

① 当社  
本社 東京都港区港南一丁目2番70号

② 子会社  
株式会社クロスユーアイエス (本社：大阪府大阪市)  
株式会社クロスアクティブ (本社：東京都千代田区)  
株式会社クロスリード (本社：宮城県仙台市)

(13) 従業員の状況 (2026年3月31日現在)

① 当社グループの従業員数

従業員数	前連結会計年度末比増減
881名 (19名)	25名増 (1名減)

(注) 従業員数は就業員数であり、パート及び嘱託社員は ( ) 内に年間の平均人員を外数で記載しております。

② 当社の従業員数

従業員数	前事業年度末比増減	平均年齢	平均勤続年数
563名 (16名)	25名増 (1名減)	36歳7ヶ月	11年3ヶ月

(注) 従業員数は就業員数であり、パート及び嘱託社員は ( ) 内に年間の平均人員を外数で記載しております。

(14) 主要な借入先の状況 (2026年3月31日現在)

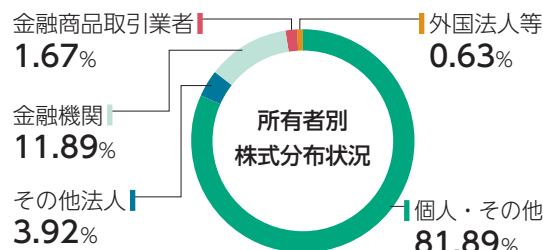
借入先	借入額
株式会社三菱UFJ銀行	210百万円
株式会社みずほ銀行	175百万円
株式会社りそな銀行	95百万円
株式会社三井住友銀行	90百万円
株式会社横浜銀行	70百万円
株式会社七十七銀行	60百万円

(15) その他当社グループの現況に関する重要な事項

該当事項はありません。

## 2 株式の状況 (2026年3月31日現在)

- (1) 発行可能株式総数 35,800,000株  
 (2) 発行済株式の総数 17,005,674株  
 (自己株式3,009,574株を含む)  
 (3) 株主数 5,855名  
 (4) 大株主 (上位10名)



株主名	持株数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1,223千株	8.74%
クロスキャット社員持株会	871千株	6.23%
尾野 貴子	576千株	4.12%
佐藤 順子	530千株	3.78%
牛島 豊	500千株	3.57%
小野田 亜紀	490千株	3.50%
明治安田生命保険相互会社	480千株	3.43%
磯田 晶子	450千株	3.21%
大久保 尚子	450千株	3.21%
田崎 冬子	440千株	3.14%

(注) 当社は、自己株式3,009千株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

### (5) 当事業年度中に職務執行の対価として当社役員に対し交付した株式の状況

当社は、取締役（監査等委員である取締役及び社外取締役を除く。）に対して、株価変動のメリットとリスクを株主の皆様と共有し、株価上昇及び企業価値向上への貢献意欲を従来以上に高めることを目的に、譲渡制限付株式報酬制度を導入しております。

当事業年度においては、取締役（監査等委員である取締役及び社外取締役を除く。）5名に対し13,800株を交付しております。

### 3 新株予約権等の状況

- (1) 当社役員が保有している職務執行の対価として交付された新株予約権の状況  
該当事項はありません。
- (2) 当事業年度中に職務執行の対価として使用人等に対し交付した新株予約権の状況  
該当事項はありません。

## 4 会社役員 の 状況

### (1) 取締役 の 状況 (2026年 3月31日現在)

地位	氏名	担当及び重要な兼職の状況
代表取締役会長	井上 貴功	
代表取締役社長	山根 光則	
取締役	山下 智己	常務執行役員 コーポレート統括部担当
取締役	道上 正人	常務執行役員 金融ビジネス事業部担当 兼公共ビジネス事業部担当 兼DX事業部担当
取締役	小倉 功	執行役員 管理統括部担当
取締役 (常勤監査等委員)	小野田友彦	株式会社クロスユーアイエス監査役
取締役 (監査等委員)	瀬戸川礼子	
取締役 (監査等委員)	鈴木 実	
取締役 (監査等委員)	幸重 孝典	

- (注) 1. 取締役 小野田友彦氏は、常勤の監査等委員であります。取締役 (監査等委員でない。) からの情報収集及び取締役会以外の重要な会議に出席することでの情報共有並びに内部監査部門との連携により監査等委員会における監査・監督の実効性を高めるため、常勤の監査等委員を選定しております。
2. 監査等委員である取締役 瀬戸川礼子氏、鈴木実氏及び幸重孝典氏は、社外取締役であります。なお、当社は各氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
3. 取締役 瀬戸川礼子氏は中小企業診断士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。取締役 鈴木実氏は、長年に亘り在籍した情報サービス業界における知見と企業経営者としての豊富な経験、幅広い知見を有しております。取締役 幸重孝典氏は経営者としての豊富な経験とIT・業務改革経験を通じた幅広い知見を有しております。
4. 当事業年度後における地位及び担当の変更

氏名	変更後	変更前	変更年月日
道上 正人	取締役常務執行役員 金融ビジネス事業部担当 兼公共ビジネス事業部担当 兼DXインテグレーション事業部担当 兼DXソリューション事業部担当	取締役常務執行役員 金融ビジネス事業部担当 兼公共ビジネス事業部担当 兼DX事業部担当	2026年 4月 1日

## (2) 当事業年度中に退任した取締役

退任時の会社における地位	氏名	退任時の担当及び重要な兼職の状況	退任日
取締役（監査等委員）	五味 洋行	株式会社エグゼクティブ・パートナー ズ代表取締役	2025年6月26日

## (3) 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、被保険者がその職務の執行に関し責任を負うこと又は当該責任の追及に係る請求を受けることによって生ずることのある損害について填補することとしています。

当該役員等賠償責任保険契約の被保険者は、当社取締役（監査等委員である取締役を含む。）及び執行役員、並びに子会社役員であり、全ての被保険者について、特約部分も含め保険料の全額を当社が負担しております。

## (4) 取締役の報酬等

### ① 取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針に関する事項

当社は、2022年6月24日開催の取締役会において、取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針を決議しており、その内容は、次のとおりです。

1. 基本方針

当社の取締役の報酬は、企業価値の持続的な向上を図り、優秀な人材を確保するために相応しい報酬の水準を維持し、株主の利益に連動した中長期インセンティブを組み込んだ報酬体系とし、個々の取締役報酬の決定に際しては、各職責を踏まえた適正な水準とすることを基本方針とします。具体的には、取締役（監査等委員である取締役を除く。）については、基本報酬（金銭報酬）及び株式報酬（非金銭報酬）により構成し、監査監督機能を担う監査等委員である取締役については、その職務に鑑み、基本報酬（金銭報酬）のみを支払うこととしております。

2. 基本報酬（金銭報酬）に関する方針

当社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）の基本報酬は、取締役の種別による基準額、当社の業績見込み、業務内容、貢献度等を総合的に勘案し、取締役会の決議により決定しております。監査等委員である取締役の基本報酬は、個々の業務内容、会社への貢献度及び就任の事情などを総合的に勘案し、監査等委員である取締役の協議で決定した基準に従い決定しております。

3. 株式報酬（非金銭報酬）に関する方針

非金銭報酬は、取締役（監査等委員である取締役を除く。）を対象に、基本報酬枠とは別枠で、1事業年度につき3万株（年額30百万円）を上限に、譲渡制限付株式報酬を付与することとしております。株価変動のメリットとリスクを株主と共有し、株価上昇及び企業価値向上への貢献意欲をより高めることを目的としており、割当株式数は、個々の取締役の貢献度等諸般の事項を総合的に勘案し、取締役会の決議により決定いたします。

なお、対象取締役に支給する株式報酬の額は、概ね基本報酬（金銭報酬）の10%程度としております。

以上

② 取締役報酬等についての株主総会の決議に関する事項

取締役（監査等委員である取締役を除く。）の報酬限度額は、2017年6月28日開催の第44期定時株主総会において、年額300百万円以内と決議いただいております。当該定時株主総会終結時点での取締役の員数は5名です。

取締役（監査等委員）の報酬限度額は、2017年6月28日開催の第44期定時株主総会において、年額60百万円以内と決議いただいております。当該定時株主総会終結時点での取締役（監査等委員）の員数は3名です。

取締役（監査等委員である取締役及び社外取締役を除く。）を対象とした株式報酬として支給する金銭報酬債権の総額は、2022年6月24日開催の第49期定時株主総会において、上記報酬限度枠とは別枠で、年額30百万円以内と決議いただいております。当該定時株主総会終結時点での取締役（監査等委員である取締役及び社外取締役を除く。）の員数は6名です。

③ 取締役の個人別の報酬等の内容が決定方針に沿うものであると取締役会が判断した理由

取締役の個人別の報酬等の内容の決定に当たっては、株主総会で承認された報酬限度額の範囲内で、代表取締役が規定に基づき当社全体の業績を俯瞰しつつ各取締役の担当領域や職責を勘案して作成した報酬案を、取締役会において決定方針との整合性を含め審議・決定していることから、その内容は決定方針に沿うものであると判断しています。

④ 取締役の報酬等の総額

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額 (百万円)			対象となる役員 の員数 (人)
		基本報酬	業績連動報酬等	非金銭報酬等	
取締役（監査等委員である ものを除く。）	162	148	—	13	5
（うち社外取締役）	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
監査等委員である取締役	31	31	—	—	5
（うち社外取締役）	(16)	(16)	(—)	(—)	(4)
合計	194	180	—	13	10

(注) 上記のうち、社外役員に対する報酬等の総額は4名16百万円であります。

## (5) 社外役員に関する事項

- ① 他の法人等との重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係  
該当事項はありません。
- ② 当事業年度における主な活動状況

区分	氏名	主な活動状況
取締役 (監査等委員)	瀬戸川 礼子	当事業年度開催の取締役会18回の全てに出席し、経営ジャーナリスト、中小企業診断士、講演講師、行政関連及び民間の各種選考委員としての幅広い経験と女性取締役として多様な視点から取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・発言を行っております。同様に、当事業年度開催の監査等委員会14回の全てに出席し、会計監査、内部監査の適正性への発言を行っております。
取締役 (監査等委員)	鈴木 実	当事業年度開催の取締役会18回の全てに出席し、情報サービス業界における長年に亘る経営者としての豊富な経験と幅広い知見から取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・発言を行っております。同様に、当事業年度開催の監査等委員会14回の全てに出席し、会計監査、内部監査の適正性への発言を行っております。
取締役 (監査等委員)	幸重 孝典	社外取締役就任後開催の取締役会13回の全てに出席し、経営者としての豊富な経験とIT・業務改革経験を通じた幅広い知見から取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・発言を行っております。同様に、社外取締役就任後開催の監査等委員会10回の全てに出席し、会計監査、内部監査の適正性への発言を行っております。

### ③ 責任限定契約の内容の概要

当社は、社外取締役と会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しており、同法第425条第1項に定める額を賠償責任の限度額としております。

## 5 会計監査人の状況

### (1) 名称

有限責任監査法人トーマツ

### (2) 報酬等の額

	報酬等の額
当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額	33,500千円
当社及び子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額	33,500千円

- (注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、「会社法」に基づく監査と「金融商品取引法」に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当連結会計年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。
2. 当社監査等委員会は、会計監査人との監査契約の内容に照らして、監査計画、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算出根拠等を総合的に検討した結果、当該報酬等の額は相当であると判断したため、会計監査人の報酬等の額について同意いたしました。

### (3) 非監査業務の内容

該当事項はありません。

### (4) 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

当社は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合、必要に応じて監査等委員全員の同意により会計監査人を解任いたします。また、会計監査人の適正性、独立性及び職務の遂行状況等を勘案し、職務の執行に支障がある場合等、会計監査人の変更が必要であると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。

## 6 業務の適正を確保するための体制及び当該体制の運用状況の概要

### (1) 業務の適正を確保するための体制

当社は、会社法及び会社法施行規則に基づき、以下のとおり当社及び関係会社における業務の適正を確保するための必要な体制について決定しております。その「内部統制システム構築に関する基本方針」は以下のとおりであります。

#### ① 取締役及び使用人の職務執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社は、経営方針に則った「コンプライアンス方針」を定め、取締役及び使用人が法令、定款及び社内規則を遵守した行動をとるための規範としており、継続的なコンプライアンス教育・研修の実施により、法令遵守意識の定着と周知徹底を図っております。

また、内部監査部門はコンプライアンス状況について監査を行い、その監査結果を社長へ報告するとともに必要に応じ改善指示を通知し、そのフォローアップを行うものとしております。

なお、法令上疑義のある行為等についての通報に応ずる内部通報制度を設け、早期に発見し是正する体制を構築するとともに、通報者の保護に十分配慮することとしております。

#### ② 取締役の職務執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務執行に係る情報については、文書又は電磁的媒体（以下、「文書等」という。）にて記録・保存し、取締役は、常時これらの文書等を閲覧できる体制としております。文書等の管理については、文書管理及び情報セキュリティに関する規程並びに関連する諸規則等に基づき、実施される体制としております。

#### ③ 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社は、「危機管理規程」を定め、企業経営に関わる危機、リスクの発生防止及び発生時に損失を最小限に防止する体制を整えております。コンプライアンス委員会においては、リスクに関する発生把握及び危機管理規程の見直しについて対処することとしております。

また、発生時につきましては「BCPマニュアル」（情報セキュリティ関係においては「ISMSマニュアル」及び「個人情報保護マニュアル」）により、早期に解決することとしております。

④ 取締役の職務の執行が効率的に行われていることを確保するための体制

当社は、業務執行における大幅な権限委譲を伴う執行役員制度の導入により、監督責任と執行責任の明確化及び業務執行の迅速化に努めております。また各執行役員は取締役会から示された経営計画の達成を担っております。

取締役会は、毎月1回定時取締役会を開催しており、経営の基本方針、法令で定められた事項やその他経営に関する重要事項が全て付議され決定されるとともに業務執行状況を監督する機関と位置付け、業績進捗につきましても議論し対策を検討し運用の充実を図っております。さらに、取締役会の機能向上を目的として、每期取締役会の実効性評価を実施しております。

また、取締役及び執行役員の出席による経営会議を毎月1回定時開催しており、経営方針の徹底、業務執行に関する重要事項の協議、進捗状況の報告、監視がなされております。

⑤ 当社及び子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社は、当社の子会社の経営意思を尊重しつつ、当社の「関係会社管理規程」に基づき業務執行状況や損失及びリスク、法令及び定款の遵守状況等の必要事項に関して報告を求め、また当社が当該子会社に対し助言を行うことにより、子会社の経営が効率的に行われる体制を確保することとしております。

⑥ 監査等委員会がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

監査等委員会が必要とした場合、監査等委員会の職務を補助する使用人を置くものとしております。監査等委員会が指定する補助すべき期間中は、指名された使用人への指揮権は監査等委員会に委譲されたものとします。

⑦ 前号の使用人の取締役からの独立性に関する事項

前号の使用人の人事（任命、異動、評定、懲戒）については、監査等委員会の同意を得るものとします。

⑧ 当社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）及び使用人、並びに子会社の取締役及び使用人が監査等委員に報告をするための体制その他の監査等委員への報告に関する体制

法令及び定款違反、内部通報、その他会社に著しい損害を及ぼす恐れのある事実を発見した時は、当社の取締役及び使用人、並びに子会社の取締役及び使用人は、速やかに監査

等委員へ報告を行うものとし、

- ⑨ 監査等委員へ報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な扱いを受けないことを確保するための体制  
当社の定める内部通報制度規程において、監査等委員への内部通報について不利な扱いを受けない旨を規定・施行します。
- ⑩ 監査等委員の職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続きその他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項  
監査等委員がその職務の執行について、当社に対し費用の前払等の請求をした際には、担当部門において審議のうえ、当該請求に係る費用又は債務が当該監査等委員の職務の執行に必要なでないことを証明した場合を除き、速やかに当該費用又は債務を処理します。
- ⑪ その他監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制  
監査等委員は、取締役会や経営会議に出席し、監査等委員が希望するその他の重要な会議へ出席できるものとしております。また、監査等委員は代表取締役との定期的な意見交換や会計監査人及び内部監査部門との情報交換を行い監査の実効性を確保するものとし、当社は監査等委員の独立性を重んじ、その判断を尊重するとともに、監査が実効的に行われるために必要な協力を行うものとし、
- ⑫ 財務報告の信頼性と適正性を確保するための体制  
当社及びその子会社は金融商品取引法の定めに従い、健全な内部統制環境の保持に努め、全社レベル及び業務プロセスレベルの統制活動の強化により、有効かつ正当な評価ができるよう内部統制システムを構築し、適切な運用に努めることにより財務報告の信頼性と適正性を確保することとしております。
- ⑬ 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況  
当社は、市民生活の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力とは一切関係を遮断し、これらの者に対して毅然とした態度で対応することを基本方針としております。  
反社会的勢力排除に向け、コンプライアンス委員会による協議と対策マニュアルの整備を行っております。また、不当要求防止責任者を設置し、警察・弁護士等の外部の専門機関とも連携を図りつつ対応を行うものとしております。

## (2) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当社は、上記の内部統制システムに基づき、以下の取り組みを行っております。

### ① コンプライアンス体制

取締役及び使用人へのコンプライアンスの理解と意識の向上を図るため、毎年、取締役及び使用人に対しコンプライアンス研修を実施しております。また、コンプライアンス委員会を毎月開催し、コンプライアンスの遵守状況を確認しております。なお、社内規程、方針については社員向けサイトで常時閲覧できる体制となっております。

### ② 取締役の職務の執行

取締役会を毎月及び必要に応じ臨時で開催し、経営に関する重要事項を決議するとともに、取締役相互に業務執行状況の監督を行っております。

### ③ リスク管理体制

上記コンプライアンス委員会において、重要リスクの洗い出しと対策を検討することで、事業継続体制を整えております。

### ④ 監査等委員会の職務執行

監査等委員会は、会計監査人や内部監査部門と定期的に連携を図っております。また、取締役会のほか社内の重要な会議及び委員会に出席することで、事業状況の理解を深め、取締役の業務執行状況を監視するとともに、業務監査の実効性を確保しております。

## 7 剰余金の配当等の決定に関する方針

当社は、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、株主の皆様に対して安定した配当を継続して実施していくことを基本方針とし、連結配当性向35%以上を目標としております。

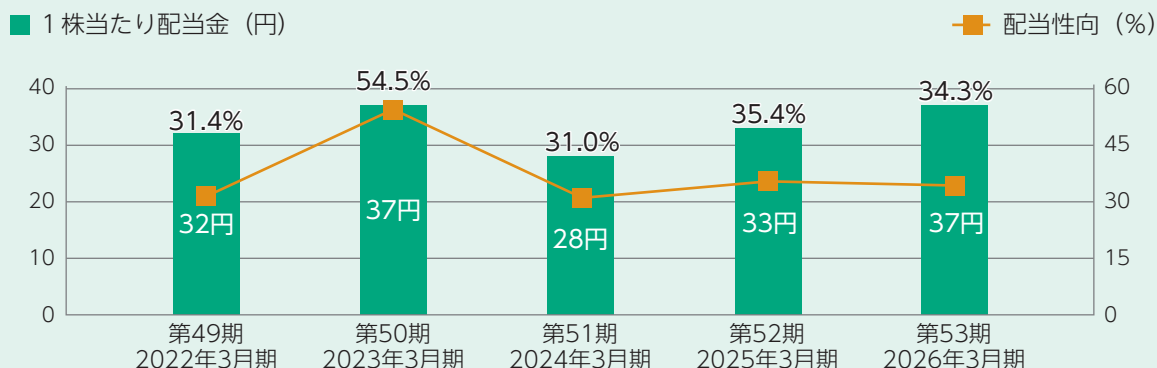
内部留保につきましては、今後予想される経営環境の変化に対応すべく、今まで以上にコスト競争力を高め、市場ニーズに応える技術・開発体制を強化するために有効活用してまいります。

当社の剰余金の配当は、配当事務にかかるコストも考慮し、配当原資が確定する期末日を基準とする年1回としており、これら剰余金の配当等の決定機関は、会社法第459条の規定に基づき取締役会であります。

当事業年度の配当につきましては、上記の基本方針に基づき、1株当たり37円としました。

自己株式の取得につきましては、株主の皆様に対しての利益還元施策の一つと考えており、株価の動向等を勘案しつつ、配当による利益還元とあわせ対応を検討してまいります。

### 1 株当たり配当金・連結配当性向



## 連結計算書類

## 連結貸借対照表

(千円未満切捨表示)

科目	第53期 2026年3月31日現在
<b>資産の部</b>	
<b>流動資産</b>	<b>8,311,943</b>
現金及び預金	3,304,336
売掛金	4,504,336
契約資産	319,644
その他	188,431
貸倒引当金	△4,804
<b>固定資産</b>	<b>2,534,200</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>342,321</b>
建物及び構築物	235,004
工具、器具及び備品	105,762
リース資産	1,407
土地	147
その他	0
<b>無形固定資産</b>	<b>147,480</b>
のれん	74,827
顧客関連資産	12,214
ソフトウェア	56,581
その他	3,858
<b>投資その他の資産</b>	<b>2,044,397</b>
投資有価証券	1,547,500
繰延税金資産	119,133
敷金保証金	305,869
その他	71,895
<b>資産合計</b>	<b>10,846,144</b>

科目	第53期 2026年3月31日現在
<b>負債の部</b>	
<b>流動負債</b>	<b>3,406,704</b>
買掛金	754,934
短期借入金	700,000
リース債務	1,548
未払法人税等	405,255
契約負債	89,927
賞与引当金	443,406
受注損失引当金	11,962
その他	999,669
<b>固定負債</b>	<b>783,298</b>
繰延税金負債	3,858
退職給付に係る負債	560,517
資産除去債務	200,516
その他	18,406
<b>負債合計</b>	<b>4,190,002</b>
<b>純資産の部</b>	
<b>株主資本</b>	<b>6,048,821</b>
資本金	1,000,000
資本剰余金	38,727
利益剰余金	6,857,229
自己株式	△1,847,135
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>607,320</b>
その他有価証券評価差額金	565,235
退職給付に係る調整累計額	42,084
<b>純資産合計</b>	<b>6,656,141</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>10,846,144</b>

連結損益計算書

(千円未満切捨表示)

科 目	第53期	
	2025年4月1日から2026年3月31日まで	
売上高		17,314,800
売上原価		13,237,081
<b>売上総利益</b>		<b>4,077,719</b>
販売費及び一般管理費		2,063,689
<b>営業利益</b>		<b>2,014,029</b>
<b>営業外収益</b>		
受取利息	4,808	
受取配当金	27,526	
助成金収入	27,768	
受取家賃	2,613	
その他	9,814	72,530
<b>営業外費用</b>		
支払利息	6,158	
支払手数料	255	
出資金評価損	36,918	43,332
<b>経常利益</b>		<b>2,043,227</b>
<b>特別利益</b>		
投資有価証券売却益	81,108	81,108
<b>特別損失</b>		
固定資産除却損	4,108	4,108
<b>税金等調整前当期純利益</b>		<b>2,120,227</b>
法人税、住民税及び事業税	663,957	
法人税等調整額	△54,885	609,072
<b>当期純利益</b>		<b>1,511,155</b>
<b>親会社株主に帰属する当期純利益</b>		<b>1,511,155</b>

## 連結株主資本等変動計算書

第53期 2025年4月1日から2026年3月31日まで

(千円未満切捨表示)

	株 主 資 本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
2025年4月1日残高	1,000,000	29,078	5,811,532	△1,723,868	5,116,741
当期変動額					
剰余金の配当			△465,458		△465,458
親会社株主に 帰属する当期純利益			1,511,155		1,511,155
自己株式の取得				△138,365	△138,365
自己株式の処分		9,649		15,098	24,747
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					-
当期変動額合計	-	9,649	1,045,697	△123,267	932,079
2026年3月31日残高	1,000,000	38,727	6,857,229	△1,847,135	6,048,821

(千円未満切捨表示)

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
2025年4月1日残高	738,653	△1,430	737,222	5,853,964
当期変動額				
剰余金の配当				△465,458
親会社株主に 帰属する当期純利益				1,511,155
自己株式の取得				△138,365
自己株式の処分				24,747
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	△173,417	43,515	△129,902	△129,902
当期変動額合計	△173,417	43,515	△129,902	802,176
2026年3月31日残高	565,235	42,084	607,320	6,656,141

### 連結注記表

記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

### 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

#### 1. 連結の範囲に関する事項

すべての子会社を連結しております。

連結子会社の数 3社

連結子会社の名称

株式会社クロスユーアイエス

株式会社クロスアクティブ

株式会社クロスリード

#### 2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

#### 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

#### 4. 会計方針に関する事項

##### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

##### ① 有価証券

その他有価証券

市場価格のない株式等…………… 期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法  
以外のもの ……………… により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

市場価格のない株式等 ……………… 移動平均法による原価法

##### ② 棚卸資産

仕掛品 ……………… 個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に  
基づく簿価切下げの方法）

### (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

#### ① 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法（ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物は定額法）

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物	3年～50年
工具、器具及び備品	3年～15年

#### ② 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法

なお、市場販売目的のソフトウェアについては、見込販売収益に基づく償却額と残存有効期間（3年）に基づく均等配分額とを比較し、いずれが多い金額をもって償却し、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（3年～5年）に基づく定額法によっております。

#### ③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

### (3) 引当金の計上基準

- ① 貸倒引当金 …………… 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- ② 賞与引当金 …………… 従業員の賞与の支払に備えるため、当連結会計年度末に負担すべき支給見込額を計上しております。
- ③ 受注損失引当金 …… 請負開発契約に係る将来の損失に備えるため、当連結会計年度末における請負開発に係る損失見込額を計上しております。

### (4) その他連結計算書類の作成のための重要な事項

#### ① 退職給付に係る会計処理の方法

- ・ 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

- ・ 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

- ・ 小規模企業等における簡便法の採用

連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

#### ② 重要な収益及び費用の計上基準

当社及び連結子会社の顧客との契約から生じる収益に関する主要なシステム開発事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

ソフトウェア開発 …… ソフトウェア開発においては顧客との契約に基づき成果物を納品する履行義務を負っております。ソフトウェア開発は、プロジェクトの進捗に伴って一定期間にわたり履行義務が充足することから、進捗率に基づき収益を認識しております。進捗率は、期末日における見積総原価に対する実際原価の割合（インプット法）に基づき、合理的に算定しております。

システム運用、保守サービス …… システム運用、保守サービスは、顧客との契約に基づき役務・サービスを提供する履行義務を負っております。システム運用、保守サービスなどの契約期間にわたり概ね一定の役務を提供するサービスでは、時間の経過に応じて履行義務を充足することから、契約期間にわたり、顧客との契約において約束された金額を契約に基づき按分して収益を認識しております。

また、それぞれの取引の対価は、履行義務を充足した時点から概ね短期間で決済されており、約束した対価の金額に重要な金融要素は含まれておりません。なお、一部のサービスの提供については、取引の対価を前受金として受領しております。

#### ③ のれんの償却方法及び償却期間

7年間の定額法により償却しております。

#### ④ 控除対象外消費税等の会計処理

資産に係る控除対象外消費税等は、発生年度の費用として処理しております。

## 連結貸借対照表に関する注記

有形固定資産の減価償却累計額 436,847千円

## 連結株主資本等変動計算書に関する注記

### 1. 発行済株式の総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度 期首株式数 (株)	当連結会計年度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計年度末 株式数 (株)
普通株式	17,005,674	—	—	17,005,674

### 2. 自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度 期首株式数 (株)	当連結会計年度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計年度末 株式数 (株)
普通株式	2,900,874	133,300	24,600	3,009,574

(変動事由)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

取締役会決議に基づく自己株式の取得による増加 133,300株

減少数の内訳は、次のとおりであります。

自己株式の処分（譲渡制限付株式報酬）による減少 24,600株

### 3. 剰余金の配当に関する事項

#### (1) 配当金支払額等

2025年5月13日開催の取締役会決議による配当に関する事項

- ・ 配当金の総額 465,458千円
- ・ 1株当たり配当額 33円
- ・ 基準日 2025年3月31日
- ・ 効力発生日 2025年6月9日

#### (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期になるもの

2026年5月13日開催の取締役会において次のとおり決議いたしました。

- ・ 配当金の総額 517,855千円
- ・ 配当の原資 利益剰余金
- ・ 1株当たり配当額 37円
- ・ 基準日 2026年3月31日
- ・ 効力発生日 2026年6月9日

## 金融商品に関する注記

### 1. 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、設備投資計画や資金繰りに照らして、必要な資金を銀行借入金により調達しており、一時的な余資は主に流動性の高い金融資産で運用しております。

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。営業部門は、販売管理規程に則り主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引先ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化による回収懸念の早期把握や軽減を図ることによってリスクを管理しております。

投資有価証券は、業務上の関係を有する企業の株式及び投資事業有限責任組合への出資であり、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、四半期ごとに時価や取引先企業の財務状況を把握し、保有状況を見直すことによりリスクを管理しております。

敷金保証金は、主に当社グループの事業所の賃貸借契約に伴うものであり、差入先の信用リスクに晒されておりますが、差入先の信用状況を定期的に把握する体制としております。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが1ヶ月以内の支払期日であります。それらの支払については、適時に資金繰り計画を作成・更新するとともに手許流動性の維持などにより資金調達に係る流動性リスクを管理しております。

借入金の使途は運転資金及び設備投資資金であり、当社は銀行借入金により調達しております。

### 2. 金融商品の時価等に関する事項

2026年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：千円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
投資有価証券	1,078,218	1,078,218	－
敷金保証金	305,869	221,549	△84,319

(注1) 現金及び預金、売掛金、買掛金、短期借入金、未払法人税等は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

#### (注2) 市場価格のない株式等

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)
非上場株式 (※1)	200
投資事業有限責任組合 (※2)	469,081

(※1) 非上場株式については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることができず時価を把握することが困難と認められることから、「投資有価証券」には含めておりません。

(※2) 投資事業有限責任組合への出資金については、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日) 第24-16項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。

3. 金融商品の時価の適切な区分ごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの視察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それぞれのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価をもって連結貸借対照表計上額とする金融資産及び金融負債

(単位：千円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
その他有価証券				
株式	1,078,218	－	－	1,078,218
資産計	1,078,218	－	－	1,078,218

(2) 時価をもって連結貸借対照表計上額としない金融資産及び金融負債

(単位：千円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
敷金保証金	－	221,549	－	221,549
資産計	－	221,549	－	221,549

(注) 時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

敷金保証金

これらの時価は、合理的に見積もった返還予定時期に基づき国債の利率を基に割引現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

収益認識に関する注記

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位：千円)

業種区分	当連結会計年度
クレジット向け	1,755,864
金融向け	3,149,467
官公庁・自治体・公共企業向け	5,264,048
製造向け	1,500,353
公営競技・スポーツ振興くじ向け	1,240,974
通信向け	1,154,926
流通向け	433,908
報道出版向け	167,289
その他	2,647,967
売上高合計	17,314,800

2. 当連結会計年度及び翌連結会計年度以降の収益の金額を理解するための情報

(1) 契約資産及び契約負債の残高等

当連結会計年度に認識された収益の額のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた額は、80,482千円であります。

※契約資産は主に、ソフトウェア開発において、期末日時点で一部又は全部の履行義務を果たしているが、まだ請求していない財又はサービスに係る対価に対する当社グループの権利に関するものです。契約資産は、対価に対する当社グループの権利が無条件になった時点で顧客との契約から生じた債権に振り替えられます。

契約負債は主に、顧客に対し継続してサービスの提供を行う場合における未履行のサービスに対して、顧客から支払いを受けた前受金です。

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

当社グループにおいては、予想契約期間が1年を超える重要な取引はありません。また、顧客との契約から生じる対価の中に、取引価格に含まれていない重要な金額はありません。

**1 株当たり情報に関する注記**

1. 1株当たり純資産額	475円 57銭
2. 1株当たり当期純利益	107円 90銭

# 計算書類

## 貸借対照表

(千円未満切捨表示)

科目	第53期 2026年3月31日現在
<b>資産の部</b>	
<b>流動資産</b>	<b>6,415,740</b>
現金及び預金	2,065,877
売掛金	3,840,986
契約資産	222,349
前払費用	121,149
関係会社短期貸付金	150,000
その他	19,437
貸倒引当金	△4,060
<b>固定資産</b>	<b>2,929,730</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>241,934</b>
建物	177,723
構築物	165
車両運搬具	0
工具、器具及び備品	62,490
リース資産	1,407
土地	147
<b>無形固定資産</b>	<b>55,082</b>
ソフトウェア	52,325
電話加入権	1,925
その他	831
<b>投資その他の資産</b>	<b>2,632,713</b>
投資有価証券	1,547,500
関係会社株式	839,873
敷金保証金	219,276
繰延税金資産	6,466
その他	19,596
<b>資産合計</b>	<b>9,345,470</b>

科目	第53期 2026年3月31日現在
<b>負債の部</b>	
<b>流動負債</b>	<b>2,801,382</b>
買掛金	586,100
短期借入金	700,000
リース債務	1,548
未払金	344,932
未払費用	141,523
未払法人税等	297,566
未払消費税等	307,292
契約負債	62,719
預り金	23,870
賞与引当金	323,865
受注損失引当金	11,962
<b>固定負債</b>	<b>520,780</b>
退職給付引当金	356,850
資産除去債務	163,204
その他	726
<b>負債合計</b>	<b>3,322,163</b>
<b>純資産の部</b>	
<b>株主資本</b>	<b>5,458,072</b>
資本金	1,000,000
資本剰余金	38,727
その他資本剰余金	38,727
<b>利益剰余金</b>	<b>6,266,480</b>
利益準備金	250,000
その他利益剰余金	6,016,480
繰越利益剰余金	6,016,480
<b>自己株式</b>	<b>△1,847,135</b>
<b>評価・換算差額等</b>	<b>565,235</b>
その他有価証券評価差額金	565,235
<b>純資産合計</b>	<b>6,023,307</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>9,345,470</b>

## 損益計算書

(千円未満切捨表示)

科 目	第53期	
	2025年4月1日から2026年3月31日まで	
売上高		12,899,684
売上原価		9,891,931
<b>売上総利益</b>		<b>3,007,753</b>
販売費及び一般管理費		1,438,603
<b>営業利益</b>		<b>1,569,149</b>
<b>営業外収益</b>		
受取利息	4,279	
受取配当金	185,535	
受取手数料	24,966	
助成金収入	10,931	
その他	18,081	243,793
<b>営業外費用</b>		
支払利息	6,158	
支払手数料	255	
出資金評価損	36,918	43,332
<b>経常利益</b>		<b>1,769,610</b>
<b>特別利益</b>		
投資有価証券売却益	81,108	81,108
<b>特別損失</b>		
固定資産除却損	3,565	3,565
<b>税引前当期純利益</b>		<b>1,847,153</b>
法人税、住民税及び事業税	493,384	
法人税等調整額	△45,557	447,826
<b>当期純利益</b>		<b>1,399,326</b>

## 株主資本等変動計算書

第53期 2025年4月1日から2026年3月31日まで

(千円未満切捨表示)

	株 主 資 本					
	資本金	資 本 剰 余 金		利益準備金	利 益 剰 余 金	
		その他資本剰余金	資本剰余金合計		その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
2025年4月1日残高	1,000,000	29,078	29,078	206,125	5,126,486	5,332,612
事業年度中の変動額						
剰余金の配当					△465,458	△465,458
当期純利益					1,399,326	1,399,326
剰余金の配当に伴う利益準備金の積立				43,874	△43,874	—
自己株式の取得						
自己株式の処分		9,649	9,649			
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額 (純額)						
事業年度中の変動額合計	—	9,649	9,649	43,874	889,993	933,868
2026年3月31日残高	1,000,000	38,727	38,727	250,000	6,016,480	6,266,480

(千円未満切捨表示)

	株 主 資 本		評 価 ・ 換 算 差 額 等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
2025年4月1日残高	△1,723,868	4,637,821	738,653	738,653	5,376,475
事業年度中の変動額					
剰余金の配当		△465,458			△465,458
当期純利益		1,399,326			1,399,326
剰余金の配当に伴う利益準備金の積立		—			—
自己株式の取得	△138,365	△138,365			△138,365
自己株式の処分	15,098	24,747			24,747
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額 (純額)		—	△173,417	△173,417	△173,417
事業年度中の変動額合計	△123,267	820,250	△173,417	△173,417	646,832
2026年3月31日残高	△1,847,135	5,458,072	565,235	565,235	6,023,307

## 個別注記表

記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

### 重要な会計方針に係る事項

#### 1. 資産の評価基準及び評価方法

##### (1) 有価証券

その他有価証券

市場価格のない株式……………	期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法等以外のものにより処理し、売却原価は移動平均法により算定）
市場価格のない株式……………	移動平均法による原価法等

##### (2) 棚卸資産

仕掛品……………	個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）
----------	-------------------------------------------

#### 2. 固定資産の減価償却の方法

##### (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法（ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法）

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	3年～50年
工具、器具及び備品	3年～15年

##### (2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法

なお、市場販売目的のソフトウェアについては、見込販売収益に基づく償却額と残存有効期間（3年）に基づく均等配分額とを比較し、いずれが多い金額をもって償却し、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（3年～5年）に基づく定額法によっております。

##### (3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

### 3. 引当金の計上基準

- (1) 貸倒引当金 …… 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- (2) 賞与引当金 …… 従業員の賞与の支払に備えるため、当事業年度に負担すべき支給見込額を計上しております。
- (3) 受注損失引当金 …… 請負開発契約に係る将来の損失に備えるため、当事業年度末における請負開発に係る損失見込額を計上しております。
- (4) 退職給付引当金 …… 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。  
退職給付引当金及び退職給付費用の処理方法は以下のとおりです。
- ① 退職給付見込額の期間帰属方法  
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
- ② 数理計算上の差異の費用処理方法  
数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

#### 4. 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要なシステム開発事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

ソフトウェア開発	……	ソフトウェア開発においては顧客との契約に基づき成果物を納品する履行義務を負っております。ソフトウェア開発は、プロジェクトの進捗に伴って一定期間にわたり履行義務が充足することから、進捗率に基づき収益を認識しております。進捗率は、期末日における見積総原価に対する実際原価の割合（インプット法）に基づき、合理的に算定しております。
システム運用、 保守サービス	……	システム運用、保守サービスは、顧客との契約に基づき役務・サービスを提供する履行義務を負っております。システム運用、保守サービスなどの契約期間にわたり概ね一定の役務を提供するサービスでは、時間の経過に応じて履行義務を充足することから、契約期間にわたり、顧客との契約において約束された金額を契約に基づき按分して収益を認識しております。

また、それぞれの取引の対価は、履行義務を充足した時点から概ね短期間で決済されており、約束した対価の金額に重要な金融要素は含まれておりません。なお、一部のサービスの提供については、取引の対価を前受金として受領しております。

#### 5. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

##### (1) 控除対象外消費税等の会計処理

資産に係る控除対象外消費税等は、発生年度の費用として処理しております。

##### (2) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結計算書類における会計処理の方法と異なっております。

**貸借対照表に関する注記**

1. 有形固定資産の減価償却累計額	276,429千円
2. 関係会社に対する金銭債権又は金銭債務（区分表示されたものを除く）	
短期金銭債権	4,211千円
短期金銭債務	28,300千円

**損益計算書に関する注記**

関係会社との営業取引及び営業取引以外の取引の取引高の総額	
売上高	383千円
外注費等	257,253千円
販売費及び一般管理費	2,579千円
営業取引以外の取引高	194,640千円

**株主資本等変動計算書に関する注記**

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数 (株)	当事業年度増加 株式数 (株)	当事業年度減少 株式数 (株)	当事業年度末 株式数 (株)
普 通 株 式	2,900,874	133,300	24,600	3,009,574

(変動事由)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

取締役会決議に基づく自己株式の取得による増加 133,300株

減少数の内訳は、次のとおりであります。

自己株式の処分（譲渡制限付株式報酬）による減少 24,600株

税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産	
賞与引当金	102,082千円
未払事業税	22,605千円
未払事業所税	3,449千円
未払法定福利費	17,356千円
退職給付引当金	112,479千円
資産除去債務	51,441千円
減損損失	5,083千円
その他	45,230千円
(繰延税金資産小計)	<u>359,728千円</u>
評価性引当額	<u>△60,838千円</u>
(繰延税金資産合計)	<u>298,889千円</u>
繰延税金負債	
資産除去債務に対応する除去費用	△32,255千円
その他有価証券評価差額金	<u>△260,166千円</u>
(繰延税金負債合計)	<u>△292,422千円</u>
繰延税金資産(負債)の純額	<u>6,466千円</u>

**関連当事者との取引に関する注記**

該当事項はありません。

**1 株当たり情報に関する注記**

1. 1株当たり純資産額	430円 36銭
2. 1株当たり当期純利益	99円 91銭

**重要な後発事象に関する注記**

共通支配下の取引

当社は、連結子会社である株式会社クロスユーアイエスの運営する事業の一部を譲り受けることを決定し、2026年4月1日付で当該事業の譲受を行っております。

(1) 企業結合の概要

①事業譲渡会社の名称及びその事業の内容

事業譲渡会社の名称	株式会社クロスユーアイエス
譲渡事業の内容	東京ソリューション開発部に係る事業：首都圏を中心としたシステム開発・保守

②事業譲受日 2026年4月1日

③企業結合の法的形式

当社を事業譲受会社とし、株式会社クロスユーアイエスを事業譲渡会社とする金銭を対価とした事業譲受

④譲受事業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金及び預金	210,000千円
取得原価		210,000千円

⑤事業譲受の目的

現在、IT人材は、旺盛なIT需要と少子化という二つの外的要因により、特に人材確保の観点から、当社グループの地域的なリソース集約の重要性が高まってきており、この厳しい事業環境下において、よりグループシナジーを発揮し、各社が成長できる体制を整備することを目的に本事業譲り受けを行いました。

(2) 実施した会計処理の内容

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2019年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日)に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

## 監査報告

## 連結計算書類に係る会計監査報告

独立監査人の監査報告書

2026年5月20日

株式会社クロスキャット  
取締役会 御中有限責任監査法人トーマツ  
東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 三浦靖晃
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 宮澤達也

## 監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社クロスキャットの2025年4月1日から2026年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社クロスキャット及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結計算書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結計算書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

## 連結計算書類に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結計算書類に対する意見表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、連結計算書類の監査を計画し実施する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

## 計算書類に係る会計監査報告

独立監査人の監査報告書

2026年5月20日

株式会社クロスキャット  
取締役会 御中有限責任監査法人トーマツ  
東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	三浦靖晃
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	宮澤達也

## 監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社クロスキャットの2025年4月1日から2026年3月31日までの第53期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

## 計算書類等に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。

- ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。

- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。

- ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

## 監査等委員会の監査報告

### 監 査 報 告 書

当監査等委員会は、2025年4月1日から2026年3月31日までの第53期事業年度の取締役の職務の執行に関し監査いたしました。その方法及び結果について以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査の方法及びその内容

監査等委員会は、会社法第399条の13第1項第1号ロ及びハに掲げる事項に関する取締役会決議の内容並びに当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明するとともに、下記の方法で監査を実施いたしました。

(1) 監査等委員会が定めた監査の方針、職務の分担等に従い、会社の内部監査部門と連携の上、重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行に関する事項の報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。

また、子会社については、子会社の取締役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。

(2) 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

#### 2. 監査の結果

##### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会の決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

##### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

##### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2026年5月21日

株式会社クロスキャット 監査等委員会

常勤監査等委員 小野田 友彦 ㊟

監査等委員 瀬戸川 礼子 ㊟

監査等委員 鈴木 実 ㊟

監査等委員 幸重 孝典 ㊟

(注) 監査等委員瀬戸川礼子、鈴木実及び幸重孝典は、会社法第2条第15号及び第331条第6項に規定する社外取締役であります。

以上

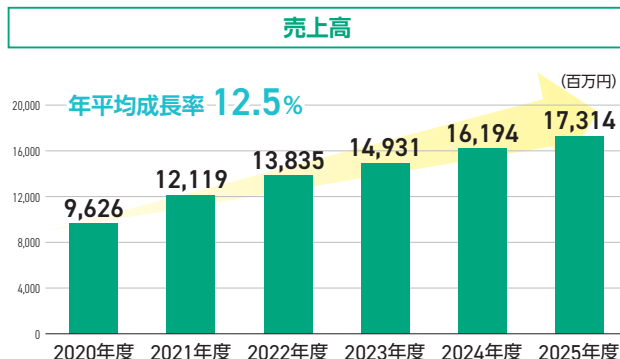
## (ご参考) トピックス

## Focus 1

## 中期経営計画「Growing Value 2026」を超える成長の実現

## 過去最高売上高・最高利益を更新。通期では5期連続の増収

中期経営計画「Growing Value 2026」のもと、公共・金融分野を中心とした社会インフラ領域が業績を牽引するとともに、高い売上成長を実現しているDX領域がその成長を加速。主力事業の着実な積み上げにより、計画は順調に進捗しており、持続的な成長を実現しています。既存顧客との継続的な取引を基盤に、安定した案件獲得と収益構造の強化を図り、外部環境に左右されにくい事業運営を推進しつつ、中期経営計画を超える事業成長を実現しています。



## Focus 2

## 開発・ソリューション実績の拡大

## 社会インフラ分野での展開

公共・金融分野を中心とした社会インフラ領域における業務システムの開発や刷新に加え、AI活用や新規ソリューションの提供を通じたDXを支援。業務知識やノウハウ、技術力を基盤に、開発からデータ利活用まで一貫した支援で実績を拡大しています。公益性が高く、複雑な各分野の業務特性を踏まえた提案力により、長期的なパートナーとして継続的な支援を行っています。

## 実績紹介

## ● ライフカード株式会社様

「顧客交渉履歴システム」を構築し、レスポンスタイムを7分の1に短縮。業務効率化を通じて、金融DXの推進に貢献しています。

●独立行政法人家畜改良センター様

「牛個体識別台帳電算システム」の刷新を支援し、統合データベースおよびWebシステムを構築。データの一元管理と業務効率化を実現しました。

●多摩信用金庫様

口座開設自動化システムを構築し、事務作業の効率化、人為的ミス削減等、生産性を大幅に向上させました。

## AIビジネスの進展

企業経営や業務の現場でAI活用への関心が高まる中、当社は実効性の高いAI活用に向け、データ整備やPoCなどお客様の状況に応じた伴走型の支援を展開しており、その取り組みが高く評価されています。また、こうした支援を通じてAI活用に関する知見やノウハウを蓄積するとともに、新たなソリューション開発にもつなげています。

### 実績紹介

**ANA X株式会社様**

社内コミュニケーションの活性化を目的としたPoC（検証実験）において、「CC-Dash AI」を活用した検証を実施しました。

**株式会社東急レクリエーション様**

109シネマズにおける映画上映スケジュールの作成業務を対象としたAI PoCを実施しました。

## オープンイノベーションによるDXビジネス拡大

AIなどの先端技術を有するスタートアップと連携し、新たな技術・サービスの創出を推進。SBI Venture Fund2023への出資を通じて、DX領域における競争力の強化と将来の成長機会の創出を図っています。こうした取り組みにより、社外の知見や技術を柔軟に取り込みながら、自社事業との相乗効果を生み出す体制づくりを進めています。

## 新規ソリューションサービスの開発

当社の強みであるBI（ビジネスインテリジェンス）ビジネスで培った知見を活かし、新たなソリューションサービスの開発を推進。お客様のDX実現に向けて、データ利活用を高度化する付加価値の高いサービスを拡充しています。また、社外の先端技術や知見を積極的に取り込みながら、自社サービスとの連携を図り、DX分野における事業領域の拡張を進めています。

### 「データ活用アドバイザーサービス」の提供開始

AI導入の効果を高めるうえで重要となるデータ整備を起点に、現状整理から課題解決方針の策定までを一貫して支援しています。データの集め方や扱い方、データシステム基盤の運用体制など、複数の観点から現状を整理し、実践的な方針策定につなげています。こうした取り組みにより、お客様が保有するデータを“活用できる状態”に整え、データドリブンな意思決定や業務高度化を支えています。

## Focus 3

## 人的資本経営の推進による成長基盤の強化

社員一人ひとりがいきいきと働ける環境づくりを通じ、中長期的な事業成長を支える基盤の強化を図っています。

### 主な取り組み

#### ライフステージに応じた様々なニーズに対応し、安心して働き続けられる職場環境づくりを推進

- ライフサポート休暇の新設

従来の生理休暇を見直し、PMS（月経前症候群）やつわり、妊娠検診なども含めた幅広い利用を可能とすることで、社員が利用しやすい制度へと拡充。

- 母性健康管理措置の拡充

妊娠中の社員に対し、通勤緩和や就業時間への配慮などを行い、安心して就業を継続できる支援体制を整備。

#### 社員交流の活性化と多様な働き方を促進し、社員が力を発揮しやすい環境を整備

- オフィスの一部をリニューアル

大会議室の新設や、社員同士の交流やリフレッシュを促進するスペースの改修を行い、コミュニケーションの活性化を図っています。



## 会社概要

商号 株式会社クロスキャット (証券コード2307)  
設立 1973年6月  
本社 〒108-0075 東京都港区港南一丁目2番70号  
品川シーズンテラス  
TEL: 03-3474-5251 (代表)  
FAX: 03-3474-5085  
資本金 10億円  
売上高 173億14百万円 (連結)  
事業内容 システムソリューション/スタッフサービス  
従業員数 638名 (2026年4月1日現在)  
認証登録 ISO27001認証 ISO9001認証  
プライバシーマーク認定 一般労働者派遣事業  
有料職業紹介事業 電気通信事業

### ■ 関係会社

株式会社クロスユーアイエス  
株式会社クロスアクティブ  
株式会社クロスリード

## IRサイトのご案内

当社IRサイトにおいて、最新のIRニュースから業績・財務情報をはじめ、詳細なIR情報を開示しております。是非ご覧ください。

<https://www.xcat.co.jp/ja/ir.html>

## 株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日  
期末配当金 3月31日  
受領株主確定日 6月  
定時株主総会 6月  
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
特別口座の管理機関  
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
〒183-0044 東京都府中市日鋼町1-1  
ヒューリック府中タワー4階  
☎ 0120-232-711 (東京)  
☎ 0120-094-777 (大阪)  
単元株式数 100株  
公告の方法 電子公告とする  
公告掲載URL  
<https://www.xcat.co.jp/ja/ir/announce.html>  
(ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行つ。)

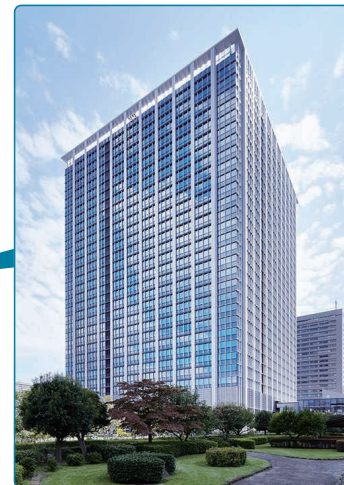
### ご注意

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きに関しましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

## 株主総会会場ご案内図

**日時** 2026年6月26日(金曜日) 午前10時 (受付開始 午前9時30分)

**場所** 東京都港区港南一丁目2番70号  
**品川シーズンテラス3階カンファレンス**



### 交通機関のご案内

- JR品川駅港南口(東口)  
より徒歩 9分
- 京浜急行電鉄品川駅  
高輪口  
より徒歩 12分

スマートフォンやタブレット端末から下記のQRコードを読み取るとGoogleマップにアクセスいただけます。



ご来場に当たりサポートが必要な方は、事前にお電話でご連絡ください。

株式会社クロスキャット 番号：(03) 3474-5251 (代表)  
(土日祝日を除く9:00~17:30)

